

巻 頭 言

深瀬 和文

雪が解けて段々と外に出かける機会が増える季節がやって参りました。私も人工呼吸器を着けて半年が過ぎました。今では人工呼吸器を着けて映画やショッピングに出かけており、呼吸器を着けてどれだけ色んなところに行けるか挑戦している最中です。

皆さんに支えられて支部長をさせていただき、早くも2年が経ちました。その間に色々な経験をさせて貰いました。

中でも印象に残っているのは各地の交流会です。交流会では患者さんはもちろん、患者さんをサポートする人達が真剣に話を聞いていたのが印象的でした。

患者さんの声や、ドクターの医療講演はインターネットでは感じる事が出来ない生の声を肌で感じる事が出来、人と人との交流の大切さを感じました。それともう一つ感じた事は地域格差です。札幌と他の自治体との医療格差と介護格差があまりにも大きいのに驚きました。

少しでも格差のない社会を願っています。

又、去年は未曾有の震災が有りました。震災を通して、いかに普段の備えが重要なのか痛感しました。震災を機に色々準備をしましたが一番大切なのは近所との助け合いだと痛感いたしました。

自分の場合はまず両隣りに私が障害者である事を説明してあります。近所の民生委員の方には私の事を把握して貰っています。消防団員の人には、緊急時にはどうしたらいいか話し合っただけで災害に備えています。

消防の人が言っていましたが、一人暮らしの高齢者は把握できていても障害者はなかなか把握するのが難しい状況と言っていました。最低でも消防には連絡しておいた方が何かと良いと思いました。

最後に、力ない支部長ですが、これからも頑張っていきたいと思っていますので、宜しく願いいたします。